

第 97 回紫友まち歩き

久右衛門邸と晩秋のさがみ野
～横浜市東戸塚の「久右衛門邸」訪問～

待ちに待ったリアルのまち歩きが 2022 年 12 月 3 日土曜に実施されました。本年 9 月 18 日日曜にオンラインで開催された久右衛門邸に実際に訪問してディナーを楽しむことに加え、案内人が地元の東戸塚の里山を選んで晩秋のさがみ野を楽しむことができました。まだ一部紅葉も残っていて、秋の色を楽しめました。

松永 017D と柴田 017D が案内とサポート役で、久しぶりの温かい冬晴の中、まち歩きはスタートしました。

日時： 2020 年 12 月 3 日(土)

集合時間： 14 時

集合場所：相鉄いずみ野線緑園都市駅
改札前

参加者： 6 人

案内人：松永 017D

懇親会：久右衛門邸

懇親会参加者：6 名

歩いた歩数：10,000 歩ちょっと

<まち歩き>：

■まち歩き行程

相鉄いずみ野線緑園都市駅→相鉄いずみ野線に沿って南万騎が原に向かって坂道を散策→横浜市立義務教育学校 緑園学園→サンステージ緑園都市東の街→フェリス女学院大学 緑園キャンパス→名瀬通りを歩いて猿田

彦神社→名瀬ふれあい広場→名瀬川沿い小川アメニティ→久右衛門邸周辺散策→久右衛門邸見学と懇親会→さかえ橋バス停移動→バス移動解散(東戸塚駅及び戸塚駅へ)

<スタート>

写真を見ながら楽しんでください。

① 相鉄いずみ野線緑園都市駅：

案内人は早めに来て、集合を待つ。14：6 分頃遅れた電車で最後の常連がやってきて、まち歩き開始。



② 相鉄いずみ野線に沿って南万騎が原に向かって坂道を散策：

右手に 1988 年に建てられた 30 年ちょっと経過のサンステージ緑園都市 西の街を見ながら、15 分ほど歩き、6 本のメタセコイアのところで折り返す。



③ 緑園学園：

サンステージ緑園都市東の街に向かって歩く。案内人はここの小学校は最近建て替え、プールや体育館などが立派だという。プールは小学生と中学生で深さを変えることができるという。校門の案内には、横浜市立義務教育学校 緑園学園と記されている。



小石川中高一貫校のように小中一貫校ではなく、このように呼ぶのだ。いじめ対策とも。

④ サンステージ緑園都市東の街：

ガレージも地下に作られ、イングリッシュガーデンや、池・滝や緑の植林があちこちに施され、緑園都市のイメージが30年を経過しても残っている。



⑤ フェリス女学院大学 緑園キャンパス：

マンション群を抜けた角地にフェリス女学院があるが、部外者は残念ながら入ることはできない。教会の鐘の写真を撮る。



⑥ 名瀬通りを歩いて猿田彦神社：

名瀬川に沿った道を広げるため、鉄骨が渡され、歩道ができています。写真を撮るのを忘れる。川が暗渠になるところを右手の細い道に入っていく。右手の崖の上に猿田彦神社があり、昇ってお参りする。



⑦ 名瀬ふれあい広場：

案内人は参加者を気遣って小さな広場でしばしの休息を取る。



⑧ 名瀬川沿い小川アメニティ：

横浜市には、水辺に親しめるように整備された小川アメニティやせせらぎ緑道等があります。ここは夏には蛍が群生するという。夏は子供が水遊びができるよう、石畳が続いている。名瀬川がトンネルに入るところには、立派な豪農の家があった。



⑨ 久右衛門邸周辺散策：

時間も早く着いたようで、久右衛門邸周辺にできている湧き水による小さな池のようなものを見学。周辺は紅葉をまだ楽しめる里山の雰囲気が残されている。



⑩ 久右衛門邸見学と懇親会：



5時からの懇親なので、納屋カフェーでしばらく休息と会話を楽しむ。納屋

カフェの建物は道具置き場だったようだ。



久右衛門邸の裏には車椅子からホテルを鑑賞できる場所がある。毎年5月中旬から6月初旬にかけて源氏ボタル・平家ボタルと乱舞とまではいえないが、数匹から十数匹の自然発生した飛翔を見られる。ディナーを楽しんだ後のさらなる楽しみでもある！



5時から古民家レストランで懇親開始。



店主の035卒の伊藤紀幸さんが、コロナ感染の1週間後でありリモートによる参加となりました。久右衛門邸についての紹介をしてくださいました。

・1836年天保七年頃に建築された古い民家

・二階では養蚕をやっていた。(5世紀頃インドから蚕種がヨーロッパに持ち込まれ、10世紀以降にはイタリアやフランス等で養蚕が普及した。1840年頃蚕の病気がはやり、アジア、特に品質の良い日本の生糸が求められたそうです。)

・戸塚宿は江戸からの1日目の宿で栄えた

・戸塚区名瀬のエリアには、99の谷戸があったと伝えられている。ここに小集落毎に人々が暮らした。なお、「谷戸」とは、丘の間に刻まれた小さな谷間のこと。丘陵の最も奥から湧き出す水が「谷戸田(やとだ)」と呼ばれる水田を潤し、人々は周辺に集落を形成し自然や生物と共生してきました。

おいしいメニューを楽しみながら、和気あいあいと話しもはずみ、松永案内人によるプレゼンも楽しみながら、無事終了しました。



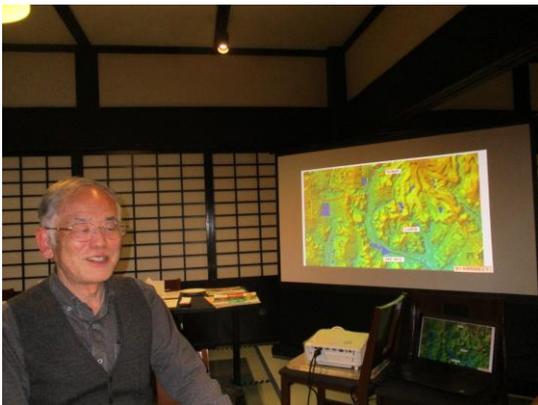


テーマ「自分へのご褒美が社会貢献になるフレンチレストラン」にぴったりでした。



⑫ バス移動解散：

戸塚駅へに向かうバスに乗る人、東戸塚駅に向かい駅のイルミネーションを楽しんで帰宅する人で解散。



100 回記念紫友まち歩きを 2023 年 6 月頃に実施したいとの話もありました。

⑪ さかえ橋バス停：

7：30 ほどに終了し、返りのバス停に向かう。残念ながらバス停に近づくと、バスが通過してしまった。寒い中、馬鹿話をして 25 分ほど次のバスを待つことになった。

<オンラインまち歩きから再掲>

・久右衛門邸の理念の紹介。

ウェブ(<https://kyuemon.jp/>)で確認できます。

自分の息子が障害者である 035E 伊藤 紀幸さんが、次のコンセプトで運営しているそうです。「障がい者が自立できる仕組みを作るために、10 年前に障がい者たちが働く福祉事業所としては全国で初めてのチョコレート工房を横浜市でつくりました。そして、今回、だれも取り組んでいない福祉の古民家レストラン事業を展開します。このレストラン事業を通じて、障がい者たちの個々の特性を生かしてスキルアップにつながることを期待しつつ、地域の共生の場としての居場所を目指していきます。」<ウェブより引用>

以上